



記入日 2018年1月15日

1. 概要

実践団体名	つくば市立吾妻学園おやじの会		
連絡先	090-8105-0342		
プランタイトル	小中一貫防災プラン「つくば吾妻学園」		
プランの対象者※1	2.小学生(低学年) 3.小学生(高学年) 4.中学生 8.教職員・保育士等 9.保護者・PTA	対象とする 災害種別※2	1.地震 3.水害 6.火災 7.災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

1. 小中一貫教育と連携した防災の取り組みにより、小学校から中学校にかけて切れ目なく防災意識を維持する。
2. おやじをはじめとする保護者および学校が軸となり、地域に防災意識を浸透させる。
3. 児童・生徒が各家庭に防災のキーワードを持ち帰ることにより、家族で防災を意識するとともに各家庭で防災に取り組む。

【プランの概要】

1. 小中一貫教育を活かしたプログラム
つくば市では、平成24年度より小中一貫教育を実施している。この特長を活かした小学生から中学生までの一貫した防災の取り組みで、児童・生徒の学年に応じた防災学習を実施した。
2. 児童・生徒の保護者が主体となった防災意識の醸成
当該地域(吾妻学園地区)は、古くからの住民が少なく、自治会組織の連携が薄い。このため、地域の防災意識の醸成に、おやじの会やPTA・保護者会などが中心となって取り組んだ。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

1. 小中一貫教育を活かし、小学生から中学生までが一体となり、学年に応じてもしもの時にできることの意識が醸成される。
2. その防災教育ノウハウについて、保護者などが主体となり継続的に取り組むことができる。
3. 身近な話題による防災セミナーや炊き出し訓練の実施により、平時から防災を意識する下地が作られる。

2. プランの年間活動記録(2017年度)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	～前年度より～ ・年間計画の立案 ・体制の構築	・実践活動に向けた講師 選出	
5月	・防災講習立案 ・親子度防災教室にかか る調整	・炊き出し訓練に関する 準備	・防災講習「災害ハザードマップ ジオ の目で見ると、疑ってみる」(5/17)
6月		・親子防災授業周知	・竜巻などを想定した避難訓練(6/10) ・第1回炊き出し訓練「焼きそば」 (6/10)
7月	・学校防災キャンプにか かる調整	・親子防災教室、学校防 災 ・キャンプにかかる準備 ・学校防災キャンプ周知	・親子防災授業(7/8)
8月	・防災講座「漢字探検隊」 立案		・学校防災キャンプ(8/5～6)
9月	・学校防災キャンプのふ り返り		・体育祭防災レクレーション(9/9)
10月		・「防災手帳」にかかる打 合せ	
11月			・「防災手帳」にかかる意見交換
12月		・防災講座「漢字探検隊」 打合せ、資料作成 ・防災講座「漢字探検隊」 周知	・「防災手帳」にかかる意見交換
1月			・防災講座「漢字探検隊：災害・防災に 関する漢字の秘密」(1/7) ・防災講座「避難所を自分たちでプロテ ュースしよう」(1/14)
2月			・第2回防災炊き出し訓練「餅つき」 (2/3) ・「防災手帳」とりまとめ
3月			



3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3



タイトル	防災講習「災害ハザードマップ ジオの目で見ると、疑ってみる」
実施月日(曜日)	平成29年5月17日(水)
実施場所	B i v i つくば
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者及び講師 氏 名：長屋 和宏 所属・役職等：国総研 主任研究官(つくば市科学教育マイスター)
所要時間または「コマ数×単位時間」	1.5時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1.イベント・行事、11.出前授業
活動目的※5	6.防災に関する知識を深める
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地元地域がジオパークに認定された(筑波山地域ジオパーク)ことを踏まえた、ジオ学習と防災教育の連携 ・ジオ学習と防災教育が連携した学習コンテンツの創出
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災ハザードマップをジオ学習の観点で読む(例：地震ハザードマップと地形・地質の関係) ・ハザードマップの疑問点、問題点を解説(例：行政判断による境界の不思議) ・地域の災害対策について地形的特徴や歴史的経緯を理解
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくば市総合防災ブック」
参加人数	25名
経費の総額・内訳概要	特になし
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>ジオ学習、防災教育のそれぞれに携わる関係者の連携が図られ、お互いの裾野を広げることができた。 地域に災害リスクをジオの観点で説明することでより理解が深まるといった、学習コンテンツの創出が出来た。</p> <p>【課題】</p> <p>児童・生徒の学習への展開にあたって、より分かり易い学習コンテンツへのブレイクダウン。</p>
成果物	講習で使用したパワーポイント資料

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	親子防災授業
実施月日(曜日)	平成29年7月8日(土)
実施場所	吾妻学園小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者及び講師 氏 名：「吾妻学園おやじの会」メンバー 所属・役職等：吾妻学園おやじの会
所要時間または「コマ数×単位時間」	1校時(45分)
プログラムのカテゴリ、形式※4	6.学級活動、10.家庭学習、16.避難・防災訓練
活動目的※5	9.災害対応能力の育成
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 入学間もない小学1年生を対象に、地震発生時に自らが身を守るための知識やもしもの時を想定したお父さん・お母さんとの約束について「吾妻学園防災手帳」を用いて学ぶ。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> 「吾妻学園おやじの会」メンバーを講師として、地震時に取るべき基本動作として、「危険なモノから離れる」、「小さくなってじっとする」を説明 自分の部屋をイメージして危ないモノを考える 「吾妻学園防災手帳」の防災マップを用いて、自分の家と学校の位置関係、通学路について保護者とともに把握(本授業は参観授業)  
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> 「吾妻学園防災手帳」



参加人数	120名
経費の総額・内訳概要	特になし
成果と課題	<p>【成果】 入学間もない時期で、保護者のほとんどが参加する授業参観で防災を扱うことにより、家庭に防災意識を持ち帰ってもらうことができた。</p> <p>イラストなどを多用することで、小学1年生の児童でも部屋の中で地震時に危ないモノなどを認識することができた。</p> <p>【課題】 より多くの保護者の参加を求め、入学間もない時期に親子防災授業を設定したが、児童の理解度については改善の余地があるかもしれない。</p>
成果物	親子防災授業で使用したパワーポイント資料 各児童が保護者と記載した通学路マップ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	学校防災キャンプ																																
実施月日(曜日)	平成29年8月5日(土)～6日(日)																																
実施場所	つくば市立吾妻学園中学校																																
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：津田 直江 所属・役職等：「吾妻学園おやじの会」会長																																
所要時間または「コマ数×単位時間」	2日間																																
プログラムのカテゴリ、形式※4	1.イベント・行事、13.体験学習																																
活動目的※5	5.災害を疑似体験																																
達成目標	・学校泊や食事作りを通じて、非常時に必要なスキルや知識を親子で身につける																																
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<p>キャンパスケジュール</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="13">8月5日(土)</td> <td>10:00</td> <td>テント設置(参加保護者有志)</td> </tr> <tr> <td>13:00</td> <td>【体育館】集合(受付 12:30～)</td> </tr> <tr> <td>13:00-13:05</td> <td>【体育館】オリエンテーション、班分けの発表</td> </tr> <tr> <td>13:05-13:45</td> <td>【体育館】アイスブレイク・レクレーション</td> </tr> <tr> <td>13:45-14:45</td> <td>【体育館】1～2年生：もしもの救命講座(協力：人の命を守る会) 【体育館】3～7年生：ロープ結び講座(協力：(株)モンベル)</td> </tr> <tr> <td>14:45-15:45</td> <td>【7学年オプンスペース】火災煙体験(協力：つくば市消防本部中央消防署) 火事の実験(協力：国土技術政策総合研究所)</td> </tr> <tr> <td>15:45-16:30</td> <td>【校庭】かき氷作り 寝場所の確認(テント設置と荷物の移動)</td> </tr> <tr> <td>16:30-18:00</td> <td>【昇降口前】夕食準備および夕食(サバメシ) 食事後、シャワーなど</td> </tr> <tr> <td>19:00-20:30</td> <td>【美術室】防災工作</td> </tr> <tr> <td>20:30-21:30</td> <td>【体育館】レクレーション</td> </tr> <tr> <td>22:00</td> <td>電気を消して寝よう</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">6日(日)</td> <td>6:00</td> <td>起きる時間</td> </tr> <tr> <td>6:30</td> <td>【校庭】ラジオ体操～テントサイト片づけ</td> </tr> <tr> <td>7:00</td> <td>【昇降口前】朝食(防災食)</td> </tr> <tr> <td>8:00-9:00</td> <td>解散</td> </tr> </table>	8月5日(土)	10:00	テント設置(参加保護者有志)	13:00	【体育館】集合(受付 12:30～)	13:00-13:05	【体育館】オリエンテーション、班分けの発表	13:05-13:45	【体育館】アイスブレイク・レクレーション	13:45-14:45	【体育館】1～2年生：もしもの救命講座(協力：人の命を守る会) 【体育館】3～7年生：ロープ結び講座(協力：(株)モンベル)	14:45-15:45	【7学年オプンスペース】火災煙体験(協力：つくば市消防本部中央消防署) 火事の実験(協力：国土技術政策総合研究所)	15:45-16:30	【校庭】かき氷作り 寝場所の確認(テント設置と荷物の移動)	16:30-18:00	【昇降口前】夕食準備および夕食(サバメシ) 食事後、シャワーなど	19:00-20:30	【美術室】防災工作	20:30-21:30	【体育館】レクレーション	22:00	電気を消して寝よう	6日(日)	6:00	起きる時間	6:30	【校庭】ラジオ体操～テントサイト片づけ	7:00	【昇降口前】朝食(防災食)	8:00-9:00	解散
8月5日(土)	10:00		テント設置(参加保護者有志)																														
	13:00		【体育館】集合(受付 12:30～)																														
	13:00-13:05		【体育館】オリエンテーション、班分けの発表																														
	13:05-13:45		【体育館】アイスブレイク・レクレーション																														
	13:45-14:45		【体育館】1～2年生：もしもの救命講座(協力：人の命を守る会) 【体育館】3～7年生：ロープ結び講座(協力：(株)モンベル)																														
	14:45-15:45		【7学年オプンスペース】火災煙体験(協力：つくば市消防本部中央消防署) 火事の実験(協力：国土技術政策総合研究所)																														
	15:45-16:30		【校庭】かき氷作り 寝場所の確認(テント設置と荷物の移動)																														
	16:30-18:00		【昇降口前】夕食準備および夕食(サバメシ) 食事後、シャワーなど																														
	19:00-20:30		【美術室】防災工作																														
	20:30-21:30		【体育館】レクレーション																														
	22:00		電気を消して寝よう																														
	6日(日)		6:00	起きる時間																													
		6:30	【校庭】ラジオ体操～テントサイト片づけ																														
7:00		【昇降口前】朝食(防災食)																															
8:00-9:00		解散																															
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>人材：</p> <p>地域のボランティアおよび店舗などの専門スキルを持った講師 人の命を守る会(もしもの救命講座) (株)モンベル(ロープ結び講座) つくば市消防本部中央消防署(火災煙体験) 国土技術政策総合研究所(火事の実験)</p> <p>資機材：</p> <p>テント(「茨城県立中央青年の家」より借用) キャンプ用品(地域の児童クラブより借用)</p>																																
参加人数	75名 (児童・生徒：28名、保護者：28名、教員など：19名)																																
経費の総額・内訳概要	約10万円、講師謝金、食材費、レクレーション材料費など																																

成果と課題

【成果】

- 学校泊や食事作りを通して災害などが発生した非常時を疑似体験し、必要なスキルおよび知識を身につけ、危機対応能力を高めることができた。
- 児童・生徒は、学年を跨いだ縦割り班とすることで、吾妻学園内での交流が推進され、災害時をも想定した学園および地域全体の連携強化が図れた。

【課題】

- キャンプ内の各プログラムへの保護者の参加が多少限定的である場面があり、親子で防災を意識するという達成目標にむけての課題があった。



成果物

防災キャンプのしおり



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)


※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	漢字探検隊「災害・防災に関する漢字の秘密」
実施月日(曜日)	平成30年1月7日(日)
実施場所	つくばイノベーションプラザ
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者及び講師(防災・災害分野) 氏 名：長屋 和宏 所属・役職等：国総研 主任研究官(つくば市科学教育マイスター) 担当者・講師等の区分：講師(漢字教育分野) 氏 名：久保 裕之 所属・役職等：立命館大学 白川静記念東洋文字文化研究所
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1.イベント・行事、13.体験学習
活動目的※5	1.遊び・楽しみながらの防災
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習を通じて災害・防災について学ぶ。
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> 参加小学生とともに、学校での漢字学習や漢字の成り立ちについて、漢字教育の専門家が講話。 今後発生が予測される地震災害や様々な災害に遭わないようにするための備えなどについて、防災の専門家が講話。 災害や防災に関する話題を提供し、話題の中のキーとなる漢字を取り出し、漢字教育専門家が漢字の成り立ちについて解説。 (1つの漢字につき15分程度の講話) パネルディスカッション的に、これをくり返し、5～6文字程度の漢字と災害・防災の関係を体験的に学習。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div>



準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・災害に関する実験状況等の映像資料
参加人数	33名(小学生12名、その保護者など21名)
経費の総額・内訳概要	特になし
成果と課題	<p>【成果】 漢字の成り立ちを、その文字の元となった形や動きなどのエピソードを交えて学ぶことで、漢字のみならずテーマ(災害・防災)についても関心を持って、記憶に留まる形で学習が出来た。</p> <p>【課題】 今回は学年の区切る事無く、小学生の全学年(1～6年生)を対象としたため、学年に応じたテーマの設定が必要であることが分かった。</p>
成果物	・漢字学習カード 

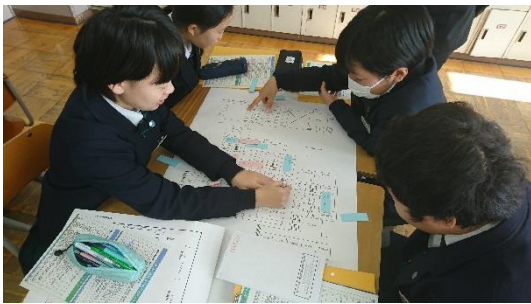
※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	防災講座「避難所を自分たちでプロデュースしよう」
実施月日(曜日)	平成30年1月14日(日)
実施場所	つくば市立吾妻学園中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 所属・役職等：吾妻学園中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	2校時(110分)
プログラムのカテゴリ、形式※4	4.総合的な学習の時間、13.体験学習
活動目的※5	6.防災に関する知識を深める
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 地震等の災害から考えられる様々な状況において、自分たちの学校を避難所として開設するにあたり、どのようなことに配慮べきかを考える。
実践方法・進め方(箇条書きまたはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> 避難所と避難場所の違い、災害時の避難所の様子について専門家より講話 避難所で避難者がやるべきことを生徒らが検討・整理 自分たちの学校が避難所になった想定で、校舎の各部屋をどのように使うかをグループワーク 災害時に発生するさまざまなミッションに対して、生徒たちで解決方法を議論する 他の学校などでも実施できるプログラムへの標準化 
準備、使用したもの・人材 ・人材 ・道具、材料等	<p>人材： 地域の専門家：災害時の避難所の様子についての講話</p> <p>資機材： 校庭に設置されている防災倉庫資機材 「つくば市総合防災ブック」(ハザードおよび避難所に関する基礎情報の把握) 防災士読本</p>
参加人数	100名
経費の総額・内訳概要	特になし



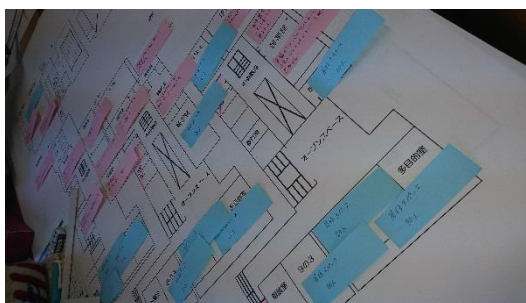
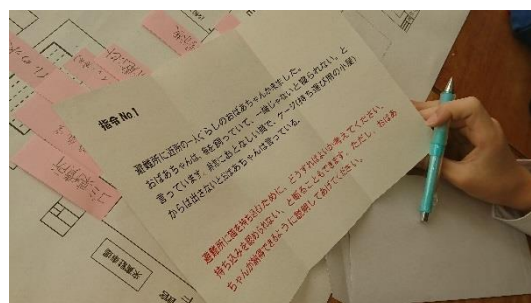
成果と課題

【成果】

- 避難所、避難場所の違いについて適切に理解するとともに避難所での避難者の役割について理解を深めた。
- 生徒自らが学校を避難所とするワークショップに取り組むことで、想定すべことを広範に検討し、グループ討議をおこなった。
- もしもの時に備えて、避難所開設に必要なモノについての議論、抽出を行った。
- プログラムの標準化により、つくば市内の他の中学校（3校）に展開できた。

【課題】

- 生徒のグループ討議の成果は、保護者、地域住民に広め、共通理解としていくことが有効であるが、どのように実施していくかが今後の課題である。



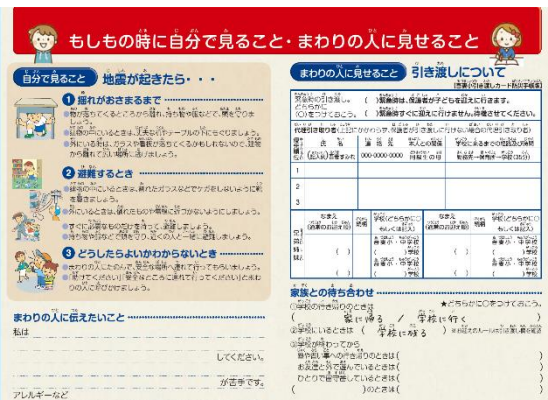
成果物

学校避難所マップ
ワークショップを通じて抽出した避難所に必要なモノリスト

- ※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
- ※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
- ※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6】※3

タイトル	「吾妻学園防災手帳」制作
実施月日(曜日)	チャレンジプランのほぼ全期間
実施場所	随意
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：長屋 和宏 所属・役職等：「吾妻学園おやじの会」チャレンジプラン担当 担当者・講師等の区分：講師 氏名：国崎 信江 所属・役職等：危機管理教育研究所代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	—
プログラムのカテゴリ、形式※4	17.その他 資料の作成
活動目的※5	2.防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災手帳」用いた、普段からの防災意識の醸成
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校～保護者間の危機管理上のルールや児童・生徒への災害時の基本行動の指導内容について整理。 ・学校における災害を想定した取り組み（児童・生徒引き渡しに関するルールおよび引き渡しカードなど）の保護者の理解度、浸透度愛の整理とともに課題の抽出 ・保護者が常に認識すべき事項や児童・生徒に伝えるべき事項を整理 ・専門家（危機管理教育研究所 国崎代表）のヒアリング ・「吾妻学園防災手帳」のとりまとめ・印刷 ・「吾妻学園防災手帳」を用いた防災普及活動(説明会または授業)の実施（実践プログラム番号：6「親子防災授業」と連携）





準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	人材： おやじの会メンバー、PTA関係者（安全委員会）との意見交換 危機管理教育研究所国崎信江代表（資料に関するヒアリング調査） 道具、材料： PTAで制作した、安全マップを活用 「つくば市総合防災ブック」の記載事項を活用
参加人数	15名（おやじの会メンバー）
経費の総額・内訳概要	10万円（資料印刷費用）
成果と課題	【成果】 「防災手帳」の記載事項に、「まわりの人の見せること」として、引き渡しカードと同じ内容を記載することで、引き渡しに関する基本ルールの徹底が図られた。 「防災手帳」は、児童・生徒および保護者の常時携行を呼びかけることで、普段からの防災意識の醸成に繋がった。 また、PTAとして毎年作成している安全マップを活用することで、PTA委員会活動の活性化に繋がった。 【課題】 自分たちの地域の防災をより身近に意識するツールとしていくため、「防災手帳」の制作に向けたより多くの保護者、地域住民の意見をくみ取る仕組みが必要であると感じた。
成果物	・「吾妻学園防災手帳」

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> つくば市では、総合的学習の単元で、3年生、5年生、8年生(中学2年)のそれぞれの学年で防災学習を行っており、これらに対して学校の先生方の負担を減らせる様にとの想いでアプローチしたが、時間的な余裕を持った連携を取ることができなかった。 このため、従前のプログラムをより高いレベルで成長させられなかった部分がある。 逆に事務局内での保護者間連携という意味では、特段の苦勞などはなかった。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校防災キャンプは、今回で7回目を迎えるプログラムであったが、例年実施しているメニューの踏襲と新しいメニューの導入で悩んだ。事務局としては経年で実施しているメニューに対するマンネリ化の声がある一方、初めて参加する児童・生徒も多く、彼らにとっては新鮮な取り組みであるため、そのバランスや新しいメニューを取り入れるにあたってのアイデア、準備に対する労力などが問題となった。 一方で、当初想定していなかった、「ジオパークとの連携」、「漢字学習プログラムとの連携」等については、様々なアイデアを持ち寄ることで、前向きに取り組むことができた。 各イベントなどの周知・参加者の確保では思う様な成果が上げられなかった部分がある。これは時期などの問題もあるが、子供の参加には保護者の負担が必須と取られた部分があった。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校との連携では、おやじの会としての活動に先生方を引き込むことができなかった。学校の先生方の業務である部分と保護者のボランティアの部分のバランス、相互理解を深いレベルで共有できなかった。 一方で、学校のカリキュラム(前述の総合的学習)とは、日程などの多少の無理はあったものの相応の連携を図ることができた。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	つくば市立吾妻学園小学校 つくば市立吾妻学園中学校	活動場所などの提供、学習単元との連携
保護者・ PTAの組織	つくば市立吾妻学園小学校PTA つくば市立吾妻学園中学校PTA 風の子クラブ(児童クラブ保護者会)	保護者などへの周知、各イベントへの協力 各イベントへの協力、保有し機材の供与
地域組織		
国・地方公共団体・ 公共施設	つくば市消防本部中央消防署 つくば市ジオパーク室	防災講師(防災キャンプ：火災煙体験) ジオ学習と防災教育の連携
企業・ 産業関連の組合等	(株)モンベル	防災講師(防災キャンプ：ロープ結び講座)
ボランティア団体・ NPO法人・NGO等	人の命を守る会 漢字を楽しむ会「遊」	防災講師(防災キャンプ：もしもの救命講座) 防災講習「災害・防災に関する漢字の秘密」開催に向けた連携
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	国土交通省 国土技術政策総合研究所	防災講師(火災に関する出前講座および実験)

6. 成果と課題(実践したプラン全般について)

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●10年後も続く継続プログラムの構築を目指して活動し、より多くの保護者、地域住民を巻き込む工夫により、例えば、炊き出し訓練では、子供達との食事会的な位置づけを示したり、学校行事の体育祭に防災要素を盛り込んだりした。これにより、おやじをはじめとする保護者の協力が得られるとともに防災を意識した取り組みの実践ができた。 ●学区内のみならず、全市的な取り組みや近隣ボランティア組織の活動にも着目することで、防災教育のアプローチに新たな展開の可能性ができた。その成果として、ジオパークとの連携、漢字学習と防災教育とのコラボレーションなどが実現した。 ●防災手帳は、これまでの経験を活かし、より実践的な資料としてとりまとめることができた。 ●他の地域、学校に展開出来る防災学習コンテンツが作られた。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●防災キャンプや炊き出し訓練などの実施では、これまでの経験が活かされた部分も多くある一方で、作業の役割分担、ルーチン化が進み、個別のカリキュラムなどでは新たなアイデアの創出、初めての取り組みができなかった部分があった。 ●その要員として、各プログラムの企画・準備が比較的ギリギリとなってしまうこと、広く意見を拾い上げる打合せ回数が不足していたことが、反省としてあげられる。 ●また、子供達からの意見、特に中学生にも企画段階から参加してもらう枠組みを作ることができれば良かった。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●これまで実施してきた、防災キャンプ、炊き出し訓練、親子防災授業などは、今後も継続的实施していく。 ●一方で、それぞれの進め方や内容については、随時ブラッシュアップを図る。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

吾妻学園では、平成21年度より学校と連携した防災啓発活動をPTA関係等の一部の保護者により実施されてきた。

平成23年3月に発生した東日本大震災では、吾妻小学校は、つくばエクスプレスプレスのターミナルとなるつくば駅に最も近い市立小学校であったことから、帰宅困難者を中心とする700名を超える避難者が訪れ、市内最大の避難所となった。

避難所の運営は、学校関係者（学校教職員およびPTA等）のほとんどが初めての経験であったが、過年度からの取り組みが、功を奏し、比較的スムーズな避難所運営がなされた。

しかしながら、当時の経験などは、教職員の人事異動、児童・生徒の卒業に伴い、失われつつあった。このため、実務的かつ継続的な防災啓発活動の必要性をPTAが再認識し、当時の経験などの記録を残す取り組みを行うとともに、平成23年度より防災キャンプなどの児童・生徒も交えた活動を実施してきた。

特に、平成26年度には、茨城県教育委員会「地域との連携による学校の防災力強化推進事業」(H24-27)における「地域と学校が連携した防災教育モデル事業」のモデル地域(校)に吾妻小学校が指定を受け、現在も継続的に実施している様々な取り組みのベースができるとともに、初版の「吾妻小防災手帳」を作成した。

しかしながら、これまでの取り組みは、一部の保護者の創意工夫や行動スキルに依存して実施してきた側面があり、それぞれの取り組みが異なる問題認識や目的に基づいて実施されていた。また、平成24年度より吾妻小学校と吾妻中学校が小中一貫校として活動してきていることから、この特性を十分に活かしてより多くの保護者と連携した活動が可能となった。

防災教育チャレンジプランへの参加にあたっては、

- これまでの取り組みについて、広く意見を頂く
- 他の団体との意見交換などを通じて、その取り組みを参考にする

といった目的を持ち、また、プランへの参加を通じ、今後も継続的に実施することのできる取り組みとしていくことを目標とした。

この目的、目標に対する達成度については、「6. 成果と課題」に記載したとおりであるが、今後も続けられるプログラムとして、吾妻学園内の保護者、教職員に認識されたと思う。

また、個別のイベント（防災キャンプなど）についても、毎年参加を楽しみにしており、いろいろなアイデアを出してくれる、児童・生徒がいることが分かるとともに、過年度に参加した高校生、大学生も遊びに来てくれるなど、今後に繋がっていくものとなりつつあることが実感できた。

(自由記述： 1/3)



【提案】

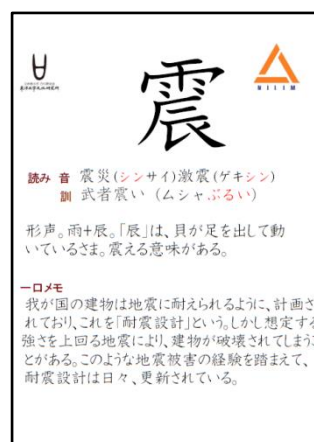
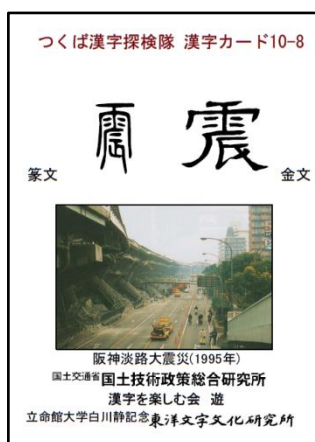
●異なる学習プログラムとの連携

「実践プログラム：4」として、記述しましたが、今回の取り組みの中で、地域のボランティア団体が実施する、「漢字探検隊」との連携が実現しました。

「漢字探検隊」は、漢字の成り立ちと体系を学習するもので、テーマに沿って動・植物園、博物館、展示館での見学・体験を通じ、その基となった物の形などと併せて漢字を覚える、体験型のユニークな講座です。また、見学・体験場所の専門家(学芸員や研究者)が話題提供することで、テーマについての興味、関心を深めてもらうことも大きな特徴です。

防災教育は、我々が自然災害と共に暮らしてきた経験や教訓をもとに、暮らしを守るために先人が遺した知恵や工夫、営みの集積である「災害文化」として成り立っています。また、漢字学習も、漢字が生まれた自然・社会・文化に基づき、3、500年もの間、意味合いをほとんど変えることなく使用されてきた成り立ちと体系に基づいています。

今回、「漢字探検隊」として、防災について学ぶ機会を持てたことは、児童・生徒のみならず、保護者などの大人の人達にも、思わず「へえ～」と人に話したくなる様な、興味、関心を継続して持てただけのコンテンツとなりました。



このように、異なる学習プログラムやジオパークガイドのインタープリターのスキル等との連携により、児童・生徒がより興味・関心が持てる防災教育コンテンツの創設に繋がると思います。

(自由記述： 2/3)



●学校危機管理の取り組みと学校での防災教育の連携を

学校では、防災のみならず様々な観点での危機管理マニュアルが作られています。この作成や維持管理には、管理職や養護教諭の先生方が尽力されています。

一方で、総合学習に位置づけられることが多い防災教育のカリキュラム作りには、担当学年の先生方が、忙しい時間をやりくりして防災について調べたり、学習の狙いをとりまとめたりといった工夫がされています。

防災教育の目的は、自らが考え自然災害から身を守ることにあり、学校での危機管理と防災教育は同じ方向性を持つものだと思います。

しかしながら、学校内での扱いが有機的に連携しているケースはあまり多くないと実感しています。

学校での危機管理マニュアルの作成にPTAや保護者が関わりやすい環境の整備、子供達のまち探検で得た成果をマニュアルに活かす取り組みの標準化などが、先生方の負担軽減、より有機的な学校・地域の防災力向上に繋がると思います。

吾妻学園では、これまでの防災の取り組みから、つくば市内の各学校が学校防災危機管理マニュアルを整備する際に参考とする、手引きのとりまとめに協力をしています。この中では、実際の災害対応の経験や、防災教育の取り組みから学校とPTAなどが連携した事例をコラムとして記載しています。

つくば市学校防災危機管理マニュアル
作成の手引き

～地震災害を想定した対応の例と解説～
～竜巻等の積乱雲による突風災害を想定した対応の例と解説～
～災害発生後の対応の例と解説～

平成29年3月15日改訂

つくば市教育委員会

(自由記述： 3/3)